

あなたは右派、左派？

関西大学 社会安全学部 小澤 守

今回は右派（みぎは）、左派（ひだりは）の議論をしたい。エスカレーターの利用に際し、阪神間では左側を空けて右側に立ち、急ぐ人たちは左側を登っていく（これを右派とする）。一方、主として関東では左側に立ち（左派）、右側を歩いて上っていく。筆者などは東京駅の中央線ホームへのエスカレーターなどではとても歩く気がしないので、エスカレーターに身を任せているが、元気な強者達はどんどん歩いて上っている。阪神間から東京に出かけると、最初はこの立ち位置の違いに戸惑うのである。この人たちが例えば新神戸駅に戻ってくると、プラットホーム階から改札階に降りるエスカレーターでは、東京での経験が癖になったのか、左側に立つが、続いて地下鉄に向かうエスカレーターに乗る際には、いつの間にか阪神流に戻って右側に立っている。関西全体が右派ではなく、京都は左派が大勢を占めている。

各地の状況を見ると、名古屋、広島、博多、おそらく札幌も左派であるようだ。大阪との中間に位置する筆者の勤務先が所在する高槻は右派で、どうやら右派は阪神間に限定されるように思う。はるか離れたロンドンの地下鉄では右派が大勢を占めていたと記憶する。道路では人は右、車は左が通念であるから、高速移動体は左側を走行するとの見地からすれば、右派が正当となるが、高速などでは追い越し車線は右側にあり、高速移動体は右側を走行することからすれば、左派が正当となるといったところで屁理屈としか聞こえない。海外からの導入元の影響かもしれないが、電力における50Hz, 60Hzほどの問題も生じない。

エスカレーターに乗る際には、急停止などに備えてハンドレールをしっかりと掴んで乗ることが必要である。ところでハンドレールはステップよりも微妙に速いのご存知か？逆にもしハンドレールが少しでもステップよりも遅く移動すると、乗客は相対的には後ろに引っ張られ、転倒の危険性があるためだそう。人は前のめりには体を支えられるが、逆には弱いのである。完全にステップとハンドレールを同じ速度で移動させることはできないわけではないが、経年劣化などでわずかとはいえハンドレールが遅れることがないとは言えない。そこで考え出されたのが、少し早く移動させることだったのだろう。長年の経験の蓄積の上に現在の設定がなされているのだろう。安全技術にはこのような微妙なところまでの配慮が必要なのである。

エスカレーターの「正しい」乗り方を説明したポスターで、左右二人ずつびっしりと立っている絵を見たことがある。エスカレーターの設計荷重はすべてのステップに2名ずつ（幅の狭い場合は異なる）立った場合を基準としているからかもしれない。しかし安全推進の立場から言えば、右派でも左派でもなく、各ステップの真ん中に1名ずつ1ステップ間隔を空けて立ち、ハンドレールをしっかりと掴んで乗るのが望ましい。そのときには当然ながら現状よりも輸送能力が下がり、プラットホームから改札までの移動に時間が余計にかかるようになり、嫌がる人たちも多いと思うが、多少の不便を受け入れる余裕と寛容がなければ

安全は確保できないのである。これは何もエスカレーターに限らない。なお少なくとも間違
ったイメージさえ与えかねないポスターは好ましくない。



エスカレーター利用あれこれ（左：左派，中央と右：右派，イラストは只木琴音さん）